

平成28年度

東京都美術館年報

Tokyo
Metropolitan
Art Museum
Annual Report
2016



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

【開館90周年記念展関連展示】

木々のアトリエ

主催／東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
協力／岐阜県立森林文化アカデミー、アート・コミュニケーター東京
会期／平成28年8月3日(水)～8月7日(日)、9日(火)
会場／公募展示室ロビー階第3
出品資料件数／293件
観覧料／入室・参加無料
担当／稲庭彩和子・熊谷香寿美・河野佑美

「木々との対話」展に関連し、6日間のみ限定開室したアトリエ。このアトリエでは、さまざまな木の素材に触れられるほか、「木々との対話」展出品作家によるワークショップや公開制作を開催。また作品の素材や制作の背景・プロセスがわかる展示や出品作家のこれまでの作品図録や関連書籍の展示をした。美術館北側のイチョウの木の下に設置された、田窪恭治《感覚細胞－2016・イチョウ》など展示室以外の展示を見に行くツアーも開催。

会場では「木々のアトリエ」開設に合わせてチーム・アップされたアート・コミュニケーター「きぎラー」が来場者の鑑賞のサポートを行った。

ポスター・パネルデザイン：栗谷川舞(STUBBIE DESIGN)
きぎラーの目印となるアイテムのデザイン・制作：長嶋恭介

【展示物概要】

土屋仁応…《鳳凰》マケット2点、《猫》マケット2点、《麒麟》マケット2点、《鳳凰》原寸型紙、《麒麟》原寸型紙、《獅子》原寸型紙、制作の道具、作品制作時の木の端材、アトリエ写真10点(撮影：齋藤さだむ)、田中福男 玉眼サンプル5組10点、田中福男 参考作品、

國安孝昌…《CHI VA PIANO VA LONTANO 2016(静かに行く人は、遠くへ行く。)》設営作業15日間の観測写真150点(撮影：HIGURE 17-15 cas)及び設営風景写真10点(撮影：齋藤さだむ)、杉材・レンガ・ワイヤー数点

田窪恭治…COR-TEN[®](提供 新日鉄住金)、《感覚細胞－2016・イチョウ》設営風景写真10点(撮影：齋藤さだむ)

舟越桂…作品制作時の木の端材、アトリエ写真10点(撮影：齋藤さだむ)

須田悦弘…《ユリ》、《バラ》、《朝顔》、《雑草》設営風景写真10点(撮影：齋藤さだむ)

木材標本 50点

出品作家にまつわる書籍14冊、木にまつわる書籍10冊



ポスター



アトリエ入口パネル



アトリエ入口



撮影：中川正子(下から2枚目を除く)

実績

入場者数／4,015人(1日平均 669人)

・関連企画

8月3日(水)、4日(木)、9日(火)各日 10:30～、15:00～

「木々のアトリエ発」館内ツアー(45分間程度)

ガイド：アート・コミュニケータ「きぎラー」

対象：どなたでも

参加者数55人

アトリエから出発し、館内に展示された、「木々との対話」展の作品を鑑賞しながら、館の北側の大イチョウの下に設置された作品をきぎラーとめぐるツアー

8月5日(金)10:00～14:00

土屋仁応さんとワークショップ

「想像の動物ってどんな風に生まれるの？」

ワークショップ講師：土屋仁応

対象：小学校3年生以上中学生までとその保護者

参加者数22人

土屋さんと一緒に、作品を鑑賞した後に、想像上の生きものを考え、実際の彫刻でも使用されている「くすのき」の木片に描くワークショップ

8月6日(土)10:00～17:00(但し、12:00～13:00を除く)

須田悦弘さんの公開制作「上野公園を歩き、そして《雑草》が生まれるまで。」

参加者数447人

須田さんが上野公園を歩き、作品のモデルとして見つけた雑草を、木々のアトリエで一日掛けて彫刻し、完成した《雑草》を展示室に設置するまでの一連のプログラム

8月7日(日)10:00～12:00

國安孝昌さんと一緒に巡る「木々との対話」

対象：高校生以上

参加者数20人

國安さんと一緒に、《CHI VA PIANO VA LONTANO 2016(静かに行く人は、遠くに行く。)》を鑑賞した後に、作品制作で使用している道具を使いながら、丸太をくみ上げる体験をするワークショップ

・とびラーによるプログラム

8月6日(土)、7日(日)11:00～16:00

「樹の街」

参加者数567人

「木々との対話」展を鑑賞した参加者が、素材としての木に触れつつアート・コミュニケータ(とびラー)と対話することで、鑑賞体験を振り返ることができる場づくりを行った。山梨県小菅村の木材や1万個の積み木、木をテーマにした絵本、木材や種子など、木にまつわる物をハンズオンで展示。切り紙や工作ができるスペースも設けた。(会場：公募展示室ロビー階第4)

4

アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切にし、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

学校連携

展覧会関連プログラム

建築ツアー

障害のある方のための特別鑑賞会

調査・研究プロジェクト・その他

アートコミュニケーションプログラム

アートを媒介として、人々のつながりや、新たなコミュニケーションを育む活動をしています。美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、様々な参加型プログラムを実施しています。

*参加方法等の詳細は各館ウェブサイトをご覧ください。

とびらプロジェクト

東京都美術館 × 東京藝術大学

東京都美術館と東京藝術大学が連携して行うアートを介したコミュニティを作るプロジェクト。一般公募のアート・コミュニケータ「とびら」が学芸員や大学教員らと共に活動。美術館に集う多様な人々と作品や場をつなぐコミュニケーションから新しい価値を創出し社会に届けます。

museum start

あいうえの

上野公園に集まる文化施設が連携し、子供たちの「ミュージアム・デビュー」を応援。子供と大人が学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。年間を通じて、小・中・高校生が参加できるプログラムをおこなっています。

この事業はアーツカウンシル東京の一環として実施します。
主催：東京都、東京都美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、東京藝術大学

http://museums-start.jp

Design : Kazuya Kondo

とびらプロジェクト

平成28年度で5年目を迎えた、アートを介したコミュニティづくりを育むソーシャル・プロジェクト。当館と東京藝術大学(以下、藝大)が連携し、市民と共に美術館を拠点にオープンで実践的なコミュニティの形成を目指して活動している。一般公募の上、選考を経て集まった第5期アート・コミュニケータ(愛称:とびラー)は、第3・4期とびラーと合流し、125人が活動。とびラーと、学芸員と藝大の教員は対等に対話を重ねながら基礎講座や実践講座を経て、美術館や上野公園においてさまざまなプログラムを実施した。

とびラーの活動はボランティアな活動である。しかし、「アートを介してコミュニケーションを促進する人」という、その人の「働き」が明解に伝わるのが名称として最も重要と考え、とびラーをボランティアとは呼んでいない。とびラーは美術館や文化財を介して新たなコミュニケーション回路をつくる役割を持ち、学びと実践をくり返しながらプロジェクトを推進している。

藝大側の代表教員として日比野克彦氏(東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授)、プログラム運営のアドバイザーとして西村佳哲氏(働き方研究者/リビングワールド代表)、森司氏(アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長)が関わっている。

実施プログラムは事業実績一覧(P.65～P.68)を参照。ウェブサイト[<http://tobira-project.info/>] (ページ・ビュー数/198,523)

とびラー募集の流れ

平成27年度

12月 第5期とびラー募集広報開始

1月 とびらフォーラム(説明会)/5期応募受付開始

2月 応募受付締切

3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)→5期とびラー決定通知

平成28年度

4月 基礎講座(～6月)隔週土曜日6回(10～15時)全24時間

とびラボ(年度末までにのべ325回開催)

6月 実践講座(～3月)

鑑賞実践講座 年間9回

アクセス実践講座 年間8回

建築実践講座 年間7回

7月 『Museum Start あいうえの』プログラム開始

12月 第6期とびラー募集広報開始

1月 とびらフォーラム(説明会)/第6期応募受付開始

2月 応募受付締切

3月 1次選考(書類審査)→2次選考(面接)→第6期とびラー決定通知

開扉会(かいびかい:とびラーの任期満了式)

応募条件

- 1) 18歳以上の方(高校生を除く)で、日本語で日常会話ができる方
- 2) 美術または美術館に関心があり、積極的に学び、活動意欲のある方
- 3) 東京都美術館のミッション(使命)を理解し、共感して活動できる方
- 4) 4～6月の基礎講座全6回に原則としてすべて参加可能な方
- 5) 7月以降、月2回以上の活動に参加可能な方
- 6) Eメールでの連絡が可能な方(パソコンでのメール送受信が可能な方)

活動条件

- 1) アート・コミュニケータの活動は無償。交通費、謝礼等の支給はなし。ただし、講座及び随時開催される研修に無料で参加可能。
- 2) アート・コミュニケータの登録期間は1年間。次年度以降は本人と美術館双方の合意のうえ、登録更新し、任期は最長3年間とする。
- 3) とびらプロジェクトのウェブサイト等を読んだり、Eメールでの連絡ができること。

平成28年度に新しく加わった第5期とびラーの応募状況

255人からの応募があり、書類審査、面接を経て、58人を第5期とびラーに決定。約4倍の倍率であった。この58人と第3・4期とびラー67人とで5年目のとびらプロジェクトが始動した。



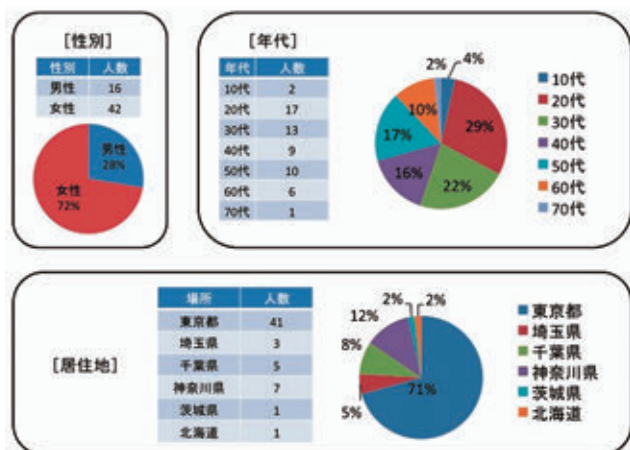
第5期とびラー募集(チラシ)

とびらプロジェクトの事務局

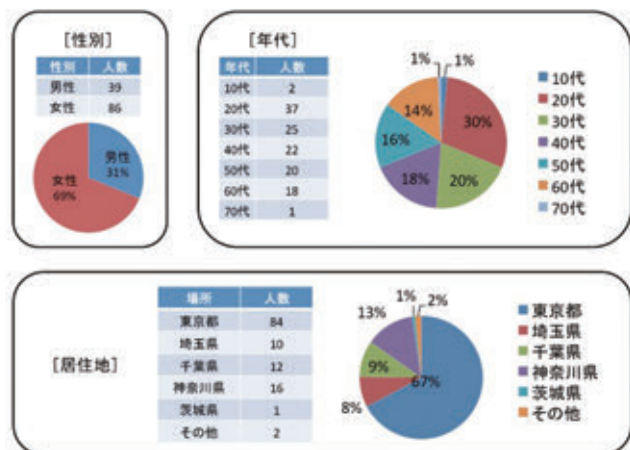
平成27年度に引き続き、当館のプロジェクトルーム（交流棟2階）を拠点として、藝大美術学部の伊藤達矢特任准教授（とびらプロジェクト・マネージャ）と大谷郁特任助手（とびらプロジェクト・コーディネータ）、奥村圭二郎特任研究員（とびらプロジェクト・コーディネータ）が運営の実務を担当した。

とびラーのすがた

年齢や性別、活動日などが偏らないようにも配慮された上で選考された平成28年度のとびラーのすがたは次の図のとおりである。



第5期とびラーのすがた(平成29年3月末時点)



平成28年度とびラーのすがた 第3・4・5期(平成29年3月末時点)

基礎講座・実践講座

とびラーは「基礎講座」と「実践講座」を通して、当館のミッションと藝大からのメッセージ、とびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、とびラーとしての役割への理解を深めていく。

・基礎講座(4～6月の隔週土曜日10～15時/全6回)

当館を拠点として、アートや文化財を介しながら新たなコミュニケーションを作っていくための基本を学ぶ。現在の美術館活動はどのようなものか？ 対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？ ホスピタリティとは？ など、具体的に参加形式で学ぶ。1年目のとびラーは全員必修。

第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)

とびらプロジェクトを知る・語る

講師/第3・4期とびラー、伊藤達矢、河野佑美

ねらい:新とびラーと、第3・4期とびラーやスタッフが複数の接点を持つ機会にする。

コミュニケーションの中からとびらプロジェクトやMuseum Start あいうえのの特徴を知る。

第2回 社会装置としてのミュージアムの役割とは何か、そこでのとびラーの役割とは何か。

講師/日比野克彦、森司、稲庭彩和子

ねらい:東京国立博物館や国立西洋美術館などを見学し、上野に集まる他の文化施設について知る。その上で、文化施設が集積する上野公園の魅力とは何か、文化施設の社会的役割とは何か、アート・コミュニケータとしての役割とは何かについて考える。

第3回 作品を鑑賞するとは…

講師/稲庭、河野

ねらい:作品の鑑賞について理解を深める。作品が存在することによって起こる体験とは、私たちにとってどのように意義があるのか、それらを鑑賞することの意味についても考える。

第4回 「きく力」を身につける

講師/西村佳哲

ねらい:「とびらプロジェクト」では上手な話し方を練習する講義はないが、人の話を「きく」ための講座が用意されている。コミュニケーションの基本は、相手の話に興味をもって、真剣に「きく」ことだと考えているからである。話を「きく力」について考える。

第5回 会議が変われば社会が変わる

講師/青木将幸(NPO法人淡路島アートセンター副理事長)

ねらい:アイデアを共有し活動をつくっていく上で大事な「ミーティング」の理想的なスタイルを学ぶ。

第6回 この指とまれ/そこにいる人が全て式/解散設定

講師/西村

ねらい:とびラーが自主的に活動していくために

は、自分たちでチームを作り、アイデアを共有し、お互いの力を上手に出し合って、成果を求めなくてはならない。この回では、小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方について学ぶ。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。



基礎講座(第6回)

・実践講座(6月以降各講座ごとに適宜実施)

活動の基本となる3つの柱に則した、より実践的な3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当、実際の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、活動への理解を深め、コミュニケーション・スキルを高めていく。

A 鑑賞実践講座(モノと人を考える) / 全7回

講師 / 三ツ木紀英 (NPO法人芸術資源開発機構 ARDA)、稲庭、熊谷、河野、鈴木

B アクセス実践講座(ヒトと人を考える) / 全8回

講師 / 熊谷晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター准教授)、渡辺由美子 (NPO法人キッズドア理事長)、高取しづか (NPO法人JAMネットワーク代表)、小山紳一郎 (公益財団法人ラボ国際交流センター理事(当時))、館野泰一 (立教大学経営学部助教)、伊藤、稲庭、奥村

C 建築実践講座(ハコと人を考える) / 全7回

講師 / 青木淳 (建築家)、君塚和香 (東京藝術大学キャンパスランドデザイン室特任助教)、mosaki (大西正紀・田中元子(建築コミュニケータ))、大谷、河野

オープンレクチャー

「とびらプロジェクト」の一環として、とびらおよびとびらプロジェクトに関心のある一般の方々を対象に、とび

らプロジェクト・オープンレクチャーを実施した。とびらが「アート・コミュニティの形成」について理解を深めるとともに、とびらプロジェクトに関心のある一般の方々にも発信する機会としている。

平成28年度は、vol.6を7月に開催。「青木淳が語る前川國男－中心のない建築：彼の目指したデザインとは？」をテーマに、建築家青木淳氏の眼を通して、前川建築の魅力を探った。東京都美術館を設計した前川國男は、モダニズム建築の巨匠と呼ばれながらも「間」という日本的な感覚を、生涯を通して追求した。平成24年にリニューアル・オープンし「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」をつくることを標榜した東京都美術館の今を、建築空間の分析を通して、再考する機会とした。



オープンレクチャー vol.6「青木淳が語る前川國男」

とびらプロジェクトフォーラム

第6期とびら募集のための説明会(フォーラム)を開催。2部構成になっており、全体のテーマを「美術館から社会的課題を考える－する／されるをこえて」とし、第1部は講堂において、クロストーク「一緒に冒険する、ということ」というテーマで西村氏と稲庭がとびらプロジェクトの社会的課題への取り組みについて語った。続くパネルディスカッションでは現在進行形の「とびらプロジェクト」について設立から関わっているメンバー(日比野・西村・森・伊藤・稲庭)が「未来を作らないコミュニケーション、作るコミュニケーション－アート・コミュニケータへの期待」というテーマで、プログラムが届きにくい子供たちの存在を意識したプログラムの現場で起こる共同的なコミュニケーションについてフォーカスし、その可能性について考えた。第2部はとびらの活動拠点であるアートスタディールームを会場に「オープンスペース・カフェ」を開催し、「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開。参加者同士

がフランクに対話できるカフェや、普段の活動を知ってもらうための資料を用意し、パネリストやとびラーが来場者の率直な疑問にも対応した。のべ参加者数354人。



とびらプロジェクトフォーラム 撮影：藤島亮

とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。様々なバックグラウンドを持つとびラーによる「この指とまれ式」→「そこにいる人がすべて式」→「解散！また結成」の3ステップでオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。年間のべ開催数325回。のべ参加者数1,510人。

主な「とびラボ」

とびらボードでGO！、イロイロとび缶バッジ、ヨリミチビジュツカン、若冲らうんじ、ベビーカーツアー、樹の街、おしゃべり鑑賞会、トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー、見楽会、卒展さんぽ、女子美さんぽ、森のいきもの、なりきりアーティスト、藝祭さんぽ、学芸員カフェ、など。



藝大卒展さんぽ

とびらプロジェクトのコミュニケーション・デザインと活動の記録保存

とびラー同士は、実際に会って話し合ったり、プログラムを実施したりするのに加えて、メーリングリストとウェブ上の「掲示板(募集・告知機能)」と「ホワイトボード(報告機能)」をコミュニケーション補助ツールとして運用しながら活動を活性化させている。「この指とまれ式」で集まった有志のとびラーの活動は、プログラム実施までのプロセスや、実施後の振り返りなどの内容をそれぞれが自主的に記録し、ウェブ上にある「掲示板」や「ホワイトボード」に必ずアップロードすることによって、約100人からなるとびラー同士が常に情報共有できるように設計されている。こうした記録は、活動のプロセスの共有の場となった後、アーカイブとしての機能も果たし、次の世代のとびラーがまたそれを参照できるようにつくられている。

これからゼミ

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後、どの様に活動していくのかについて考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目とびラーを1名以上含むプロジェクトチームを結成し活動を進めていく。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。「アート・コミュニケータ」としての総仕上げの場として設定されている。ミーティング開催数23回、のべ参加者数162人。

「これからゼミ」から生まれたプロジェクトは下記の通りである。

①藝大ガイドツアー

藝大卒展期間中に藝大構内の建物や彫刻、植栽に注目したツアーを開催。あまり足を踏み入れる機会のない構内

で、当館の「建築ツアー」での経験を活かし、オリジナルのツアーを開催。

②小菅村でワークショップ&クリスマスパーティー

「木々との対話」展で実施したとびラボ「樹の街」に木材を提供していただいたことが縁で、とびラーが山梨県小菅村で出張プログラムを行った。NPO法人多摩源流こすげと協力しながら、小菅村の木材を使用し、クリスマスにちなんだワークショップとパーティーを開催。



藝大ガイドツアー

開扉会(かいびかい)

とびラーの任期は最長3年間のため、平成29年3月末に第3期とびラーが任期満了となった。都美のとびらを開け続けてきたとびラーが次の世界に飛び立つ、送る会「開扉会(かいびかい)」を開催。館長と日比野氏からのメッセージと当館の最寄り駅であるJR上野駅や東京メトロ上野駅からの初乗り切符がセットされた「開扉の証」が授与された。任期満了とびラー27人。



開扉会

アート・コミュニケータ東京

とびらプロジェクトのとびラー任期満了者の有志が組織する団体。当館での「障害のある方のための特別鑑賞会」(P.63参照)の運営を協働した。

上野「文化の杜」連携プログラム

数寄フェス関連プログラム「ヨリミチビジュツカンー緑茶で語らうゴッホとゴーギャンー」

平成28年10月21日(金)、22日(土)18:00～20:00 参加20人

夜のライトアップされた当館で参加者同士と作品との一期一会を楽しむことを目的に開催されたプログラム。「ゴッホとゴーギャン展」を鑑賞した後に、美味しい緑茶を飲みながら、展示室で話しきれなかったあれこれを、とびラーと参加者が語り合った。



ヨリミチビジュツカン

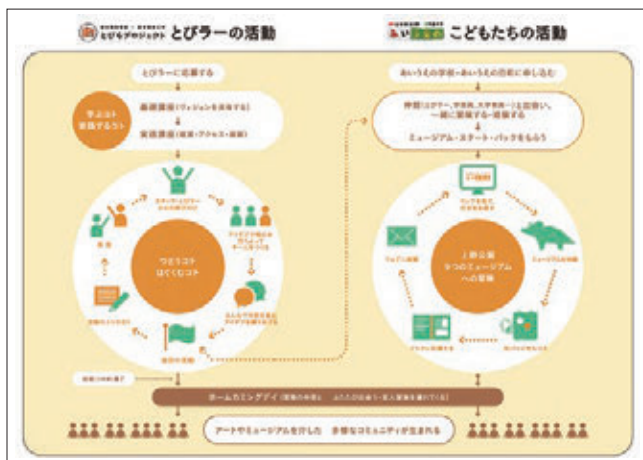
Museum Start あいうえの

上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子どもたちのミュージアム・デビューを応援するプロジェクト。子どもと大人がフラットに学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」である。日本を代表する文化施設が歩いて回れる範囲に集まっているという上野公園の魅力を活かし、バラエティ豊かな文化施設が連携することで、学びのスケールを何倍にも広げている。

このプロジェクトの連携館は、上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館（五十音順）であり、アーツカウンシル東京の事業の一環として行われ、当館と藝大が推進役となって実施している。ロゴ、連携各館のアイコンなどのデザインは、藝大教授である日比野克彦氏によるものである。また、美術館の「ピ」のように、館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカタブ」という造語をこのプロジェクトの「ひみつの呪文」としている。実施プログラムは事業実績一覧(P.65～P.68)を参照。ウェブサイト [<http://museum-start.jp>]（ページビュー数/159,920）

とびらプロジェクトとの連動

「Museum Start あいうえの」に参加する子どもたちが上野の豊富な文化資源と出会い、驚き、考え、発見するプロセスがより充実した体験になることを目指し、とびらプロジェクトのとびラーが積極的に活動、子どもたちの伴走役を務めた。大人と子どもが共に学び合う関係性を重要視している。



「Museum Start あいうえの」と「とびらプロジェクト」との連動



Museum Start あいうえの(チラシ)



「Museum Start あいうえの」の連携

Museum Start あいうえの事務局

藝大美術学部の伊藤達矢特任准教授 (Museum Start あいうえのプロジェクト・マネージャ)、鈴木智香子特任助手 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー)、長尾朋子特任助手 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、～11月)、松尾由子特任助手 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、11月～)、渡邊祐子 (Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー) が当館のプロジェクトルームにて運営の実務を担当した。

ミュージアム・スタート・バックの作成と配布

「Museum Start あいうえの」では、子どもたちがミュージアムを楽しく活用できるようにデザインしたツール「ミュージアム・スタート・バック」を参加者全員に手渡してプレゼントしている。バックの中の「ビビハドトカダブック」は、連携各館に関するガイドブック機能とミュージア

ムでの体験の記録を書き込めるスクラップブック機能があり、子どもたち自身で体験を深めることができるようになっている。また、子どもたちの意欲をより高めるため、連携各館にバックを持って出掛けるとオリジナルバッジを集められる仕組みも作っている。

Museum Start あいうえのウェブサイトの機能

「Museum Start あいうえの」のウェブサイトは、連携する9館の豊富な情報をまとめて見られるように設計されている。特に、一般的には展覧会情報に付随して掲載されていて探しにくい子どもたちやその家族が参加できるプログラムの情報を一望できるカレンダー形式が採用されている。ミュージアムがより身近なものとなり、ワクワクするような情報へのアクセスを可能にすることを目的としているためである。子どもたちが各館へ出掛けていきやすいよう、連携各館の担当職員と緊密に連携をとりながら、開催されるプログラムの情報が日々更新され、「冒険の行き先」ページで情報を得られるようにデザインされている。また、プログラムの活動記録がブログ形式でアップされている。

年間活動プログラム

あいうえののプログラムは個人向けプログラムと学校向けプログラムで構成されている。子どもたちが、放課後や休日に家族とでも、また学校の授業の中でも、美術館を楽しむことができるように、体験を通した学びの環境を用意した。

あいうえのファミリー(個人向けプログラム)

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。大人と子どもと一緒に学びあうことを目指している。障害のある子どもを含む、全ての子どもが参加可能。

・うえの！ふしぎ発見

全7回／各回定員10組20人／のべ参加者数179人(子ども+保護者数)

対象／小学1年生～高校3年生とその保護者

上野公園のミュージアムを楽しむファミリー向けプログラム。アートからサイエンスまでバラエティのあるテーマでとびラーと一緒にじっくり観察し、大人も子どもも自分だけの発見をすることを目的としている。実施プログラムは次の通り。7月27日(日)絵本部〈国立国会図書館国際子ども図書館〉、9月4日(日)アニマル部〈恩賜上野動物園×都美〉、10月2日(日)サイエンス&アート部〈東京国立科学博物館×都美〉、11月5日(土)ゴッホ部〈東京国立博物館

×都美〉、平成29年1月28日(土)卒展部〈藝大×都美〉、3月14日(火)建築部〈東京文化会館×国立西洋美術館〉、3月28日(火)VOCA部〈上野の森美術館〉(〈 〉内は活動場所となった館。)



うえの！ふしぎ発見「アニマル部」

・ミュージアム・トリップ

5団体との連携／のべ参加者数175人(子ども+保護者・引率者数)

対象／①児童養護施設、ファミリーホーム

②経済的に困難な家庭の子どもを支援している団体

③外国にルーツを持ちカルチャー・ギャップなどの困難を抱えている子どもを支援している団体

家庭等の状況により、ミュージアムを利用しにくい子どもたちと、その保護者をミュージアムに招待する全2回のオーダーメイドのプログラム。とびラーや学芸員、大学の教員が参加者に寄り添い、初めてでも安心してミュージアムを楽しめるようプログラムを組み立てた。今年度は次の団体と連携してプログラムを実施した。台湾慈濟日本東京人文学校、NPO法人JAMネットワーク(至誠学園、聖フランシスコ子寮)、NPO法人キッズドア、一般社団法人kuriya、品川景德学園



ミュージアム・トリップ

・あいうえの日和

上野公園の9つのミュージアムを楽しく冒険するコツを伝授するファミリー向けプログラムとして、小学1年生か

ら高校3年生を対象に年6回開催した。本プログラムでは、「ミュージアム・スタート・バック」の使い方を伝授するほか、当館の建築をめぐる「こども建築ツアー」などの開催を通じて、ミュージアムでの体験を記録するワークショップが開催された。特別開催や国立西洋美術館での開催を合わせ、全10回開催し、のべ251人のこどもたちの手に渡った。



あいうえの日和

あいうえの学校(学校向けプログラム)

美術館や博物館に興味のある子もない子も一同に訪れることとなる学校来館では、学校教員と連携し、事前から当日、事後までの流れをサポート。特にスペシャル・マンデー・コースでは、とびラーがこどもたちの伴走役として、充実した美術館体験を支えている。

・スペシャル・マンデー・コース

全4回開催／参加11校、参加者数592人(児童・生徒数)
対象／都内幼保・小・中・高等学校(幼稚園保育園は年長クラスから受入)

展示会の休室日(月曜日)にゆったりとした会場で鑑賞授業を行うプログラム。学芸員やとびラーが伴走役となって「対話を通じた作品との出会い」をサポートする。学習指導要領に基づき、観察力・想像力・言語力・表現力の発達を促し、生きる力を育むことを目的としている。学校教員と学芸員・大学教員らが綿密な打ち合わせを行いながら、当日のプログラムを中心に、事前授業から事後授業までの一連の流れを企画。前年度に引き続き、学校と美術館をつなぐ往復バスを用意し、美術館利用をしやすい環境を整えている。



スペシャル・マンデー・コース(認可保育園バイオニアキッズ(年長))

・平日開館コース

参加13校、参加者数523人(児童・生徒数)

対象／小・中・高等学校

当館の開室日に「学校単位で来館したい」という希望や、「美術館で鑑賞授業をしたい」、という先生方に、教材貸出や事前準備から当日までのサポートを行い、通常開室日でも可能な、よりよい美術館体験を提案・実践した。(受入校数により、都外の学校も受入)



平日開館コース(荒川区立第二瑞光小学校(5・6年生))

あいうえのコミュニティ

本プロジェクトでミュージアム・デビューをした過去の参加者がその後もミュージアムを活用していけるよう、継続的な活用を応援する様々な仕組みを提供。

・あいうえのスペシャル

3回開催／のべ参加者数392人(こども+保護者数)

対象／各プログラムでミュージアム・デビューをしたこどもたちとその保護者

・ティーチャーズ・カフェ

あいうえの学校に参加した教員とその同僚教員を対象に、上野を再訪することで、学校の連携や美術館での鑑賞授業を改めて考えるきっかけとなることを目的としたものである。

平成28年度は、ティツィアーノとヴェネツィア派展を特別に夜間開室し、貸切の空間の中でスペシャル・マンデー・コースと同様に、とびラーとのグループ鑑賞や個人鑑賞を体験し、プログラムに参加するこどもたちの視点から鑑賞授業を捉えなおしてもらった。

1回開催／参加者数20人

対象／学校来館でプログラムを利用した教員とその同僚教員

学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに、学校との連携がある。平成25年度から「Museum Start あいうえの」が始まり、当館の小・中・高校生向けのプログラムが拡充された（「Museum Start あいうえの」についてはP57～60参照）。そのためこの枠組では日常的な学校対応や教員のための研修会の開催、専門家向けの研修会への協力、インターンシップの受け入れ等を前年度に引き続き行った。また、学校団体来館の事前授業のための「鑑賞ボックス」を作成し、貸し出しを行った。このボックスには、ラミネート加工をしたA4サイズの図版カード、ポストカードやフレームスタンド等が入っている。

平成28年度に実施したプログラムは以下の通り。（事業実績一覧はP.65～P.68参照）



鑑賞ボックス(木々との対話展)

ティーチャーズ・デイ

学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための研修プログラム。当館での活動の説明や具体的な学校連携事業の事例を紹介した。学校の夏季休暇時の開催では、「対話による鑑賞の実践」や、「Museum Start あいうえの」で活用されている「ビビハドトカダブック」を実際に活用するワークショップを開催。3回の研修会を行い、のべ参加者数92人。

第1回 8月5日(金) 10:00～15:00

「Museum Start あいうえのをはじめとするアート・コミュニケーション事業の紹介。鑑賞ワークショップ

第2回 10月30日(金) 18:00～19:00

「Museum Start あいうえの」をはじめとするアート・コミュニケーション事業の紹介。特別展担当学芸員によるミニレクチャー。特別展（ゴッホとゴーギャン展）鑑賞。

第3回 平成29年1月27日(金) 18:00～19:00

「Museum Start あいうえの」をはじめとするアート・コミュニケーション事業の紹介。ジュニアガイドの活用方法の紹介。特別展担当学芸員によるミニレクチャー。特別展（ティツィアーノとヴェネツィア派展）鑑賞。



ティーチャーズ・デイ(第1回)

ティーチャーズ・ウィーク

小・中・高等学校の教員を対象に「ティーチャーズ・ウィーク」を設定し、特別展を無料で鑑賞できる期間とし、美術館での鑑賞授業を検討してもらおう場とした。

ポンピドゥー・センター傑作展

6月11日(土)～18日(土) のべ参加人数51人
担当学芸員による特別レクチャー

6月17日(金) 18:00～18:30 参加人数21人

ティツィアーノとヴェネツィア派展

平成29年1月21日(土)～29日(日) のべ参加人数153人

インターンシップ

学芸員を目指す学生や、美術館活動を支える専門的な人材育成を目的とする。主に大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、年に若干名をインターン生として受け入れている。アート・コミュニケーション事業の業務補佐として従事、現場を通して学ぶ機会を提供している。今年度は2人を受け入れた。

専門的研修会への協力

学芸員対象のエducator研修や、大学教員の研究グループ、図工や美術教員で構成される研究部会の研修などに協力。当館の活動の考え方や鑑賞プログラムの具体的な方法について意見交換や共有を行った。平成28年度は文化庁主催ミュージアム・エドゥケーター研修、文部科学省及び国立教育政策研究所(社会教育実践研究センター)主催平成28年度博物館長研修などへの協力を行った。

展覧会関連プログラム

当館では、年度ごとに報道機関などとの共催による大型の特別展を4展、学芸員による自主企画展を1展、公募団体などとの連携展を3展行っている。それぞれの展覧会をより深く理解して楽しんでもらえるように、開催期間中に様々なプログラムを企画して行った。

平成28年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はP.65～P.68参照)

1 特別展関連プログラム

会場では、こども用の鑑賞ツールとして「とびらボード」(磁気ボード)の貸出を継続した。「ボンビドゥー・センター傑作」展において、中学生以下の子供とその保護者を対象とする「キッズデー」が2回開催された。

2 企画展関連プログラム

「木々との対話」展に関連し、「木々のアトリエ」を6日間限定で開室(詳細はP.16～P.17参照)。「木々との対話」展の出品作家の作品制作にかかる資料の展示や、ワークショップ、公開制作、トークイベント、鑑賞ツアーなどを実施した。

3 連携展関連プログラム

出品作家自身が、作品について語るトークイベント(アーティスト・トーク)や年始に開催される書の展覧会に関連するプログラムを開催。

4 特別展ジュニアガイド

中学生以下の子どもたちが展覧会を楽しみ、学ぶ助けとなるジュニアガイドを制作。都内の小・中学校などには事前に送付し、会場でも配布した。当館のウェブサイトからもダウンロードできる。平成28年度は「若冲展」「ゴッホとゴーギャン展」「ティツィアーノとヴェネツィア派展」にて作成した。「ゴッホとゴーギャン展」においては都内23区の全公立小中学校の全児童・生徒(1,225校約55万部)に事前に配布した。「ティツィアーノとヴェネツィア派展」においては、初めての試みとして都内の全公立図書館・資料館(513館約2万5千部)へも配布し、広報物としてのジュニアガイドの活用も行った。



木々のアトリエ発館内ツアー 撮影：中川正子



樹の街(とびらボ発プログラム)



若冲展ジュニアガイド



ゴッホとゴーギャン展
ジュニアガイド



ティツィアーノとヴェネツィア派展
ジュニアガイド

5 とびラボ発展覧会関連プログラム

とびラーによる主なプログラム

・「とびらボードでGO!」

特別展会場入口で貸し出しをしている「とびらボード」に気に入った作品をスケッチし、それをフレームに収めてオリジナルカードを作成。

・缶バッジプロジェクト「イロイロとび缶バッジ」

展覧会を見た記憶を小さなキャンバスに見立てた缶バッジの面にスタンプを押したり、絵を描いたりしてデザインし、その場で缶バッジに仕立てるワークショップ。

・「見楽会」、「ヨリミチビジュツカン」

作品解説型のギャラリートークではなく、その時、その作品を前に感じたことや気づいたことを参加者同士で言葉にして共有しながら作品を鑑賞する会を開催。

・「ベビーと一緒にミュージアム」

赤ちゃんと一緒に生活しているご家族にも、美術館を楽しんでほしいという思いから生まれたツアー。事前申込制で、一家族に1名のとびラーが付き添い、展示室を散策、ベビーカーでの移動もとびラーがサポート。

・「マルカルミュージアム」、「アート筆談de対話鑑賞」

日本語を母語としない人を対象とした鑑賞のプログラムや、聴覚障害を持つ人とそうでない人がいっしょに作品を鑑賞し、筆談で鑑賞体験を共有するプログラムが開催された。



ヨリミチビジュツカン(ティツィアーノとヴェネツィア派展)



ベビーと一緒にミュージアム(木々の対話展)



イロイロとび缶バッジ(ゴッホとゴーギャン展)



アート筆談de対話鑑賞(ゴッホとゴーギャン展)

建築ツアー

「建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を知ってもらうツアー。とびラーの案内で、当館のあちこちを散策する。案内人のオリジナリティーが発揮された、それぞれ独自のツアーを展開。平成28年度は、打ち込みタイルの模型を活用したツアーなど、新たな視点でのツアーが加わった。5月を除く奇数月と6月の第3土曜日14時から開催。6回開催し、のべ参加者数157人。この定例のツアーに加え、前年度に引き続き、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー」をとびラーからの発案により開催。夜間開室日の日没後の30分間程度のツアー。14回開催し、のべ参加者数188人。平成28年度は、夕暮れ時のツアー「トビカン・トワイライト・ツアー」を2回開催(のべ参加者数23名)。とびラーの自主的なプログラムである「とびラボ」発のプログラムとして「建築ツアー：ハロウィン編」も開催された。事前申込制のプログラムで、モンスターに扮したとびラーとともに当館の建築に隠された秘密(=みどころ)をめぐるツアーとなった。

また、セルフガイドとして、とびラーによる「上野の杜の宝石箱」東京都美術館ヤカン・ミドコロ・スポット」「トビカン・ミドコロ・ケンチク・マップ」(7月に改訂)も引き続き配布された。



建築ツアー



トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー

障害のある方のための特別鑑賞会

普段は来場者が多く混雑している特別展示室において、障害のある方が安心してゆっくり鑑賞できるように、休室日に特別鑑賞会を開催した。事前申込制により平成28年度は「生誕300年記念 若冲展」、「ポンピドゥー・センター傑作展」、「ゴッホとゴーギャン展」、「ティツィアーノとヴェネツィア派展」において各1回ずつ計4回行い、のべ2,614人が参加した。

とびらプロジェクトと連動し、毎回20～30人程度のとびラーが当日の運営に関わるとともに、「アート・コミュニケータ東京」にも協力を依頼し、プログラムを実現している。展覧会担当学芸員による展覧会解説「ワンポイント・トーク」(手話通訳付き)も企画棟ホワイエ(ロビー階)で行った。また、とびラーの発案により、ワンポイント・トークの際に、モニターにキーワードを文字表示することで、より多くの方にも伝わるようにした。

[運営協力：アート・コミュニケータ東京]



ワンポイント・トーク風景(ポンピドゥー・センター傑作展)



鑑賞会風景(ゴッホとゴーギャン展)

調査・研究プロジェクト・その他

アクセス鑑賞プログラム研究

公募団体主催障害者向けプログラムへの協力

当館のミッションに合致するプログラムを行っている公募団体のうち、協力依頼のあった団体への事業協力を行っている。平成28年度は、日本彫刻会「タッチツアー・特別支援学級鑑賞教室」、国画会彫刻部秋季展「視覚特別支援学校とのワークショップ—彫刻鑑賞と制作体験vol.5」に事業協力し、特に、国画会彫刻部秋季展の企画については、とびラーは当日の見学のみならず、参加者とともに作品を鑑賞し、制作体験を一緒に行うなど、協力体制がより具体的になってきている。



国画会彫刻部秋季展彫刻鑑賞

アート・コミュニケーション事業活動報告書の発行

平成27年度に開催した企画展「キュッパのびじゅつかん」展の開催記録を軸に、アート・コミュニケーション事業の活動を報告書として発行した。

リニューアルを機に「アート・コミュニケーション事業」を立ち上げ、具体的な活動を通して、この事業の理念や方向性をより明確かつ、具体的にしていく期間を経た上で、「キュッパのびじゅつかん」を開催した。その記録を通して、当館の新たな活動の一端を伝えることを目的とした。



アート・コミュニケーション事業ドキュメント
「キュッパのびじゅつかん展から」

冊子[A6版/192ページ]

「「キュッパのびじゅつかん」展の舞台裏—ふりかえり」

稲庭彩和子(東京都美術館 学芸員)

pp.8-13

「「キュッパのびじゅつかん」の過去と未来」

鈴木廣之(美術史家/東京学芸大学 教授)

pp.14-17

「建築家・藤原徹平が語る「まちづくりのような展覧会」」

藤原徹平(建築家/フジワラテッペイアーキテクトラボ 代表/横浜国立大学大学院Y-GSA 准教授)

pp.92-93

「物を見つめて、物の価値を編み直す」

熊谷香寿美(東京都美術館 学芸員)

pp.140-141

「ものとの対話をもっと豊かに「キュッパのびじゅつかん・デジタル」

丸山雄三(国立情報学研究所 客員准教授/国立民族学博物館 准教授)

pp.142-145

「物の声を聴き、物同士の語り合いに聴き入れる」

佐伯胖(認知心理学者/東京大学 名誉教授)

pp.158-161

対談 日比野克彦×稲庭彩和子

「アート・コミュニケーションのこれまでとこれから」

pp.172-177

上野「文化の杜」市民大学トークセッション

「文化との出会いを感動に変えるプロフェッショナル」

TALK01 「ミュージアムでコミュニケーション—こどもの感動を生み、行動を促す工夫：国立科学博物館×恩賜上野動物公園×東京都美術館」

平成29年2月10日(金) 18:00～20:00 参加者54人

会場：国立科学博物館 地球館3階 講義室、コンパス

こどもたちがミュージアムで様々な事柄に触れ、感動し、そして考えて行動する、そんなきっかけを育むための工夫をテーマにしたトークセッション。3つのミュージアムで行われているこどもを対象としたコミュニケーションについて、普段はあまり語られることのないその舞台裏が語られた。

TALK02 「アートで人と地域をつなぐ、アートプロジェクトと美術館のこれまでとこれから：東京都美術館×上野の森美術館×東京藝術大学×地域連携団体」

平成29年2月24日(金) 18:00～20:00 参加者73人

会場：当館交流棟2階アートスタディールーム

上野公園や谷中地域で育まれてきたアートプロジェクト「アートルック上野—谷中」の20年の歴史や、「とびらプロジェクト」の取組みを題材に、上野の未来を見つめる内容となった。

アート・コミュニケーション事業 平成28年度実績

平成28(2016)年度アート・コミュニケーション事業のプログラムに参加・関わったのべ人数:40,685人

とびらプロジェクト(P.52~P.56)		*プログラム参加者、保護者、外部講師および視察等を含む			
項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびラー	一般*
アート・コミュニケータ養成		平成28年4月~平成29年3月	125		
第6期とびラー2次面接		平成29年3月10日(金)、11日(土)、12日(日)	3日間		127
基礎講座		4月16日(土)、30日(土)、5月14日(土)、28日(土)、6月11日(土)、25日(土)	6回	439	3
実践講座 鑑賞		7月18日(月・祝)、25日(月)、8月1日(月)、8日(月)、9月5日(月)、11月7日(月)、12月12日(月)、平成29年2月6日(月)、20日(月)	9回	345	
実践講座 アクセス		7月10日(日)、17日(日)、9月25日(日)、10月9日(日)、11月27日(日)、平成29年2月19日(日)	8回	297	
実践講座 建築		7月2日(土)、23日(土)、10月1日(土)、29日(土)、11月5日(土)、平成29年1月21日(土)、2月25日(土)	7回	227	11 99
とびらステーション		10月23日(日)、平成29年3月25日(土)	2回	122	4
とびラーのホーム・カミング		12月17日(土)		62	22
とびらプロジェクト・オープン	vol.6 青木淳が語る前川國男—中心のない建築:彼の目指したデザインとは?	7月23日(土)		42	11 97
とびらプロジェクト・フォーラム	美術館から社会的課題を考える—する/されるをこえて(二部構成)	平成29年2月4日(土)		71	354
とびらボ		平成28年4月~平成29年3月	325回	1532	
	アート筆談de対話鑑賞(トライアル実施「木々との対話展」)	9月11日(日)		8	3
	よくみてはなして(ゴッホとゴーギャン展)	11月20日(日)		18	37
	ミュージアムヨガ	12月17日(土)		9	25
	ババトコ!ミュージアム	平成29年1月22日(日)		6	9
	女子美さんぽ	平成29年3月5日(日)	2回	14	24
	事前勉強会「バベルの塔」展	平成29年3月26日(日)		23	
これからゼミ	説明会	7月2日(土)		17	
	これからゼミ ミーティング	平成28年4月~平成29年3月	45回	183	162
	藝大ガイドツアー	10月16日(日)、11月13日(日)、平成29年1月28日(土)	5回	18	31 113
藝大連携プログラム(講義、藝祭、卒業・修了展など)	藝大生インタビュー	11月9日(水)、16日(水)、17日(木)、22日(火)、24日(木)、25日(金)、29日(火)、30日(水)、12月1日(木)、13日(火)、16日(金)、平成29年1月11日(水)	12回	26	13
	藝大講義(色彩学)	9月28日(水)、29日(木)、30日(金)	3日間	35	
	藝祭さんぽ	9月3日(土)		10	21
	卒業さんぽ	平成29年1月27日(金)、28日(土)、29日(日)	3回	25	74
	藝大卒業ベビーと一緒にミュージアム	平成29年1月27日(金)		13	8
	藝大卒業サイレントトークツアー	平成29年1月28日(土)		10	1 8
	藝大卒業なりきりアーティスト	平成29年1月29日(日)		11	15
上野「文化の杜」連携プログラム	ヨリミチビジュツカン:ゴッホとゴーギャン展編(「数寄フェス」関連プログラム)	10月21日(金)、22日(土)	2回	15	5 20

Museum Start あいうえの(P.57~P.59)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびラー	一般*
あいうえのファミリー(こどもと家族のプログラム)	うえの!ふしぎ発見	7月24日(日)、9月4日(日)、10月2日(日)、11月5日(土)、平成29年1月28日(土)、2月14日(火)、3月28日(火)	7回	82	195
	あいうえの日和	8月20日(土)、10月15日(土)、平成29年2月18日(土)	3回	29	232
	あいうえの日和(特別開催)	11月19日(土)、20日(日)	2回		178
	あいうえの日和(国立西洋美術館)	9月17日(土)、10月1日(土)、15日(土)、11月5日(土)、19日(土)	5回		59
	【ミュージアム・トリップ(インクルーシブ・プログラム)】				
	台湾慈濟日本東京人文学校	7月10日(日)		22	67
	NPO法人JAMネットワーク(至誠学園)	7月22日(金)、8月24日(水)	2回	12	11
	NPO法人キッズドア	8月9日(火)、26日(金)	2回	24	44
	一般社団法人kuriya	8月16日(火)、平成29年3月4日(土)	2回	10	22
	NPO法人JAMネットワーク(聖フランシスコ子供寮)	9月17日(土)、10月2日(日)	2回	22	23
	品川景德学園	11月13日(日)、12月11日(日)	2回	17	18

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびラー	一般*
あいうえの学校 (学校向けプログラム) スペシャルマンデーコース のべ11校 861人	【木々との対話展】				
	杉並区立天沼小学校(5年生)	9月12日(月)	23		86
	私立明星学園中学校(2年生)	9月12日(月)	24		96
	文京区立大塚小学校(5年生)	9月26日(月)	6		30
	墨田区立第四吾嬬小学校(5・6年生)	9月26日(月)	12		59
	荒川区立尾久第六小学校(5年生)	9月26日(月)	21		64
	【驚きの明治工芸展(東京藝術大学大学美術館)】				
	荒川区立第九峡田小学校(5・6年生)	10月17日(月)	9		49
	足立区立高野小学校(5年生)	10月17日(月)	10		49
	足立区立足立入谷小学校(5年生)	10月17日(月)	11		49
	【ゴッホとゴーギャン展】				
	国立東京学芸大学付属小金井小学校(1年生)	11月14日(月)	31		133
	認可保育園バイオニアキッズ(年長)	11月14日(月)	16		52
多摩市立教育センター「ゆうかり教室」(中学2年生)	11月14日(月)	12		19	
あいうえの学校 (学校向けプログラム) 平日開館コース のべ13校 704人	【木々との対話展】				
	台東区ハートラボプロジェクト高校合同授業 (浅草高校、岩倉高校、荒川工業高校、小石川中等教育 学校 高校1・2年生)	8月3日(火)	12		30
	葛飾区立葛飾小学校(4～6年生)	8月30日(火)	12		26
	【ゴッホとゴーギャン展】				
	私立芝浦工業大学付属中学校(2年生)	10月14日(火)	14		184
	足立区立第十中学校(なでしこ学級)	12月6日(火)	4		26
	私立田園調布雙葉小学校(6年生)	12月6日(火)	2		210
	荒川区立第二瑞光小学校(6年生)	12月14日(水)	3		56
	私立品川女子学院高等部(1・2年生)	12月15日(木)			12
	【TOKYO 書 2017】				
	台東区立谷中小学校(4年生)	平成29年1月13日(金)	2		60
	台東区忍岡小学校(5年生)	平成29年1月13日(金)	2		30
	【建築ツアー】				
私立日本大学高等学校(1年生)	10月21日(金)	1		18	
あいうえのメンバー向け プログラム	あいうえのスペシャル	8月6日(土)、10月8日(土)、12月11日(日)	3回	52	8 399
	ティーチャーズカフェ	平成29年3月27日(月)	1回	6	20
学びあいカフェ	各プログラムのとびラー向け準備日	平成28年5月～平成29年3月	38回	466	
	上野高校「教科:人間と社会」の体験学習の受入	8月6日(土)、26日(木)	2日間		4

学校連携(P.60)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびラー	一般*
ティーチャーズ・デイ		8月5日(金)、10月14日(金)、平成29年1月27日(金)	3回		92
ティーチャーズ・ウィーク	ボンビドゥー・センター傑作展	6月11日(土)～18日(土)	8日間		51
	特別レクチャー:ボンビドゥー・センター傑作展	6月17日(金)			21
	ティツィアーノとヴェネツィア派展	平成29年1月21日(土)～29日(日)	8日間		190
研修協力	北区図工・美術研究部	6月24日(金)			10
	板橋区教育会図工工作部研究部会	7月1日(金)			20
	文化庁 第6回ミュージアム・エデュケーター研修	9月7日(火)～9日(金)	3日間		237
	文部科学省、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成28年度博物館長研修	7月15日(金)			36
	台東区小学校図工教員10年目研修	8月2日(火)、5日(金)	2日間		2
	世田谷美術館「美術大学」建築ミニレクチャー	11月22日(火)			37
学校団体来館対応 (職業インタビュー)	岩手県金ヶ崎町立金ヶ崎中学校	4月15日(金)			7
	愛知県豊田市立高橋中学校	6月8日(水)			5
	愛知県みよし市立北中学校	6月16日(木)			5
	東京成徳大学中学高等学校	平成29年1月18日(水)			23
	香蘭女学院高等部	平成29年2月11日(土)			3
	八千代松蔭中学校	平成29年2月17日(金)			18
学校団体来館対応 (学芸員課程)	目白大学	平成29年1月7日(土)			13
学校団体来館対応 (建築見学)	横浜国立大学大学院Y-GSA	6月23日(木)			15
	日本工学院	9月27日(火)			27

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・コミュニケータ	開扉とびラー	一般*
学校団体来館対応 (TOKYO 書)	私立星野高等学校	平成29年1月5日(木)			8
	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	平成29年1月5日(木)			16
	都立深川高等学校	平成29年1月7日(土)			3
	都立小松川高等学校	平成29年1月7日(土)			3
	東京都高等学校美術工芸教育研究会	平成29年1月10日(火)			21
観覧料免除申請 (都内教育機関)	生誕300年記念 若冲展		6校		63
	公募団体ベストセレクション 美術 2016		1校		14
	ボンビドー・センター傑作展		51校		1215
	木々との対話展		17校		341
	ゴッホとゴーギャン展		45校		1895
	TOKYO 書 2017		2校		86
	ティツィアーノとヴェネツィア派展		20校		579

展覧会関連プログラム(P.61)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数			
			アート・コミュニケータ	開扉とびラー	一般*	
【生誕300年記念 若冲展】						
講演会	記念講演会	4月23日(土)			215	
とびらボ発プログラム	若冲らうんじ	5月15日(日)		33	155	
とびらボードの貸出		4月22日(金)～5月3日(火・祝)	288枚			
ジュニアガイドの配布	事前配布	1都3県小中学校5528校	68,584部			
	展覧会会場での配布	4月22日(金)～5月24日(火)	10,000部			
スタッフ鑑賞研修会		4月28日(木)		60	13	
【公募団体ベストセレクション 美術 2016】						
アーティストトーク		5月4日(水・祝)、5日(木・祝)、8日(日)、14日(土)、21日(土)	31回	12	1994	
スタッフ鑑賞研修会		5月19日(木)		4		
【ボンビドー・センター傑作展—ピカソ、マティス、デュシャンからクリストまで—】						
講演会	記念講演会	6月11日(土)、7月30日(土)、8月27日(土)	3回		386	
	イブニング・レクチャー	7月15日(金)、8月5日(金)	2回		192	
	アート・トーク:田根剛	9月3日(土)			75	
とびらボ発プログラム	事前勉強会	5月8日(日)		32	5	
	ヨリミチビジュツカン	8月26日(金)		10	7	
とびらボ発プログラム ※キッズデーでの開催	とびらボードでGO!	8月15日(月)、29日(月)	2回	13	327	
	イロイロとび缶バッジ	8月15日(月)、29日(月)	2回	15	5 430	
	おしゃべり鑑賞会	8月15日(月)、29日(月)	2回	32	11 88	
とびらボードの貸出		6月11日(土)～9月22日(木・祝)	3,144枚			
スタッフ鑑賞研修会		6月16日(木)		31		
【開館90周年記念展—木々との対話】						
講演会	舟越桂講演会	7月31日(日)			136	
	アーティストトーク:田窪恭治	8月14日(日)			93	
	トークショー:須田悦弘×いとうせいこう	9月2日(金)			182	
ギャラリートーク		8月21日(土)、9月4日(日)、10日(土)、17日(土)	4回		223	
木々のアトリエ		8月3日(水)～7日(日)、9日(火)	6日間	28	21 4015	
	ファシリテータ研修	7月30日(日)		14	5	
	木々のアトリエ発館内ツアー	8月3日(水)、4日(木)、9日(火)	6回	4	12 55	
	出品作家によるワークショップ	8月5日(金)、7日(日)	2回	7	42	
	出品作家による公開制作	8月6日(土)		3	5 447	
	とびらボ発プログラム	事前勉強会	6月5日(日)		32	
		樹の街	8月6日(土)、7日(日)	2日間	25	567
マルカルミュージアム		8月7日(日)、9月22日(木・祝)	2回	19	11	
ヨリミチビジュツカン		9月10日(土)		8	3	
ベビーと一緒にミュージアム		9月22日(木)		9	8	
森のいきもの		9月24日(土)		11	13	
スタッフ鑑賞研修会		7月27日(水)		39		
【ゴッホとゴーギャン展】						
講演会		10月8日(土)、11月12日(土)	2回		450	
イブニング・レクチャー		11月18日(金)、12月2日(金)	2回		409	

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
とびラボ発プログラム	事前勉強会	8月21日(土)	29	5	
	とびらボードでGO!	12月4日(日)	9		176
	イロイロとび缶バッジ	11月26日(土)	11		300
	アート筆談de対話鑑賞	11月26日(土)	11		12
とびらボードの貸出		10月8日(土)～12月18日(日)	4,208枚		
ジュニアガイドの配布	事前配布	東京都及び近県小・中学校1242校全児童・生徒分等	555,950部		
	展覧会会場での配布	10月8日(土)～12月18日(日)	25,000部		
スタッフ鑑賞研修会		10月13日(木)	39	12	
【ティツィアーノとヴェネツィア派展】					
講演会	記念講演会	平成29年1月21日(土)、2月11日(土)、18日(土)、25日(土)	4回		900
イブニング・レクチャー		平成29年2月3日(金)、3月3日(金)	2回		271
とびラボ発プログラム	事前勉強会	11月27日(日)	21		
	イロイロとび缶バッジ	平成29年3月20日(月・祝)	16		270
	ヨリミチビジュツカン	平成29年2月12日(日)	12		9
とびらボードの貸出		平成29年1月21日(土)～3月31日(金)	925枚		
ジュニアガイドの配布	事前配布	東京・神奈川・千葉・埼玉小・中学校3984校	76,503部		
		都内図書館・資料館等513件	25,040部		
	展覧会会場での配布	平成29年1月21日(土)～3月31日(金)	24,880部		
スタッフ鑑賞研修会		平成29年1月26日(木)	30		
【TOKYO 書 2017 公募団体の今】					
アーティストトーク		平成29年1月7日(土)、8日(日)、9日(月・祝)	18回	2	1730
演奏会	橘雅友会による雅楽演奏会「都美雅楽2017」	平成29年1月4日(水)	1回		105
スタッフ鑑賞研修会		平成29年1月5日(木)	6		
【都美セレクション 新鋭美術家 2017】					
アーティストトーク		平成29年3月4日(土)、12日(日)	2回		230
とびラボ発プログラム	見学会	平成29年3月5日(日)	2回	16	16
スタッフ鑑賞研修会		平成29年2月23日(木)	11		

建築ツアー(P.63)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般
建築ツアー	建築ツアー	6月18日(土)、7月16日(土)、9月17日(土)、11月19日(土)、平成29年1月21日(土)、3月18日(土)	6回	62	138
	トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー	5月13日(金)、7月22日(金)、29日(金)、8月5日(金)、19日(金)、26日(金)、9月9日(金)、10日(土)、16日(金)、10月22日(金)、11月11日(金)、12月16日(金)、平成29年1月27日(金)、3月3日(金)	14回	75	188
	トビカン・トワイライト・ツアー	9月10日(土)、10月29日(土)	2回	14	23
	建築ツアー ハロウィン版	10月30日(日)	1回	15	20

障害がある方のための特別鑑賞会(P.63)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
障害がある方のための特別鑑賞会 説明会		4月30日(土)	65		
障害がある方のための特別鑑賞会 準備日		4月2日(土)、平成29年1月26日(木)	16		
障害がある方のための特別鑑賞会	生誕300年記念 若冲展	5月9日(月)	33	19	650
	ボンビドゥー・センター傑作展	8月22日(月)	16	13	145
	ゴッホとゴーギャン展	11月28日(月)	19	20	941
	ティツィアーノとヴェネツィア派展	平成29年2月27日(月)	20	12	879

調査・研究プロジェクト(P.64)

項目	内容	開催期間・開催日	参加者数		
			アート・ コミュニケーター	開扉とびラー	一般*
アクセス鑑賞プログラム 研究	日本彫刻会鑑賞教室(見学)	4月22日(金)、27日(水)、28日(木)	4回	7	
	国画会彫刻部視覚障害特別学校ワークショップ	11月12日(土)		8	30
上野「文化の柱」市民大学 トークセッション	「文化との出会いを感動に変えるプロフェッションナル」:TALK 01、02	平成29年2月10日(金)、24日(金)	11	2	114